緊急人道支援学会趣意書
２０２２年１１月 、２０２３年６月改訂

２１世紀も２３年を経過したが、この間世界は絶え間ない紛争と災害に見舞われている。アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン危機、シリア戦争、南スーダン内戦、イエメン内戦、ミャンマー危機、そして現在のウクライナ戦争、スーダン内戦。災害はスマトラ沖地震、中越地震、東日本大震災、ハイチ地震、トルコ地震、また台風（ハリケーン）被害は毎年世界を襲っている。それぞれに多くの被災者、難民、国内避難民が生まれ、世界の難民、国内避難民の数は１億人にのぼっている。次々に生起する人道上の危機に対して、国際社会は多様かつ大量の人道支援を行ってきた。こうした緊急人道支援は予算や分野等の規模、時間的空間的範囲が拡大し、また、支援の様式や方法も大きく変化せざるを得なくなっている。緊急人道支援は紛争や災害によって傷つき苦しむ子どもや人々への支援であり、人々に寄り添った支援でなくてはならない。それゆえに支援ニーズは多様であり、それぞれが特別な活動である。そのため人道支援における原則や対応に関する様々な共通認識はあるが、必要かつ適切な支援を見い出すことは困難であり、評価も難しい。

そこで緊急人道支援にかかわる実践者や研究者は政策や事例を分析し、人々に寄り添ったあるべき緊急人道支援にかかる知を共有し、方向性や政策を吟味し、提言する仕組みが必要とされる。しかし現在、緊急人道支援にかかる公的な仕組みが見当たらない。今回、緊急人道支援にかかわる研究者・実践者等の呼びかけで「緊急人道支援学会」を立ち上げることを検討した。学会はもとより公の器であり、様々な人々が集い、理論や動向、事例の分析等の知の共有のもとにあるべき緊急人道支援を吟味検討する場（プラットフォーム）である。 学会が研究集会や研究誌の刊行、緊急アピールや政策提言を通じて、緊急人道支援をより適切で効果のあるものとし、困難にある人々や子どもに寄り添っていくことができることを願っている。多くの実践者、研究者、学生、関心のある方々の参加をお願いする次第である。

緊急人道支援学会呼掛け人代表（５０音順）
内海成治（大阪大学名誉教授）
大西健丞（ピースウインズジャパン代表理事）
桑名恵（近畿大学教授）